

## RD 最終処分場問題対策委員会 第 5 回専門部会 概要

日 時	平成 19 年 10 月 15 日 ( 月 ) 10 : 15 ~ 12 : 05
場 所	大津市ふれあいプラザ 大会議室 ( 5 階 )
出席委員	委員：樋口部会長、江種委員、尾崎委員、横山委員 ( 以上 4 名 ) アドバイザー：(財)産業廃棄物処理事業振興財団 猿田次長 事務局：藤川循環社会推進課長、中村循環社会推進課主席参事、 上田最終処分場特別対策室長 ほか
傍聴者	8 名
次 第	1 開会 2 議題 ( 1 ) 追加調査の結果と想定される生活環境保全上の支障の整理 ( 2 ) 生活環境保全上の支障の整理 ( 3 ) その他 3 閉会
議事概要	<p><b>【報告事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会設置要綱第 6 条第 8 項の規定に基づき、池田委員および梶山委員の出席を求めたが、日程の都合上、欠席。</li> </ul> <p><b>【議題 ( 1 ) 追加調査の結果と想定される生活環境保全上の支障の整理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「1. 追加調査の結果と想定される生活環境保全上の支障の整理」( 資料 1 ) を事務局より説明。</li> </ul> <p>～ 質疑応答・意見～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>( 尾崎委員 ) ・ 分析方法は実施された方法で個人的にはよいと思っている。非常に悪い条件の時や長期影響を見る調査もあるがここにそのような危険性はないと思う。</li> <li>( 部 会 長 ) ・ 含有量の分析については、1 規定塩酸による評価でよいとして、清水先生の意見を聞いた上で、専門部会の意見としたい。</li> <li>( 横山委員 ) ・ ( 地下水の流向が ) 経堂池の下流で逆方向を向くことは理屈に合わない。季節変動もあるのでモニタリングを続ける必要がある。</li> <li>( 江種委員 ) ・ 総水銀の形態や濃度だけでなく、メチル水銀の濃度を見ると、「支障の範囲は経堂池上流まで」とするには現段階では早い。メチル水銀も注目すべき。</li> <li>( 横山委員 ) ・ 流向と水質のモニタリングを継続する必要がある。</li> <li>( 尾崎委員 ) ・ ダイオキシン類はほとんど SS についている。処分場の外側、No. 1 - 1 で 21pg-TEQ/L 検出されている。( 想定される ) 地下水流向は逆で、その理由を考える必要がある。</li> <li>( 部 会 長 ) ・ 解析の仕方は非常に難しい。ダイオキシン類の同族体分布は整理したか。</li> <li>( 事 務 局 ) ・ 次回には準備する。</li> </ul>

- (部会長)・ 一般的には、ダイオキシン類は非常に小さい微粒子に分布しており、地層の中を流下していく中で捕捉されて、外に余り出ていかない。
- (尾崎委員)・ (ダイオキシン類は)ほとんどは0.1~10 $\mu$ m ぐらいの微粒子に付着している割合が非常に多い。ろ過後の濃度が低いので、1 $\mu$ m 程度以上の粒子が多いと考えられ、(それほどの粒子は)地下水(帯水層)ではあまり移動しない。
- (部会長)・ 重金属についてもそのような傾向があるか。
- (尾崎委員)・ ホウ素、フッ素は非常に動きやすい。重金属は、環境条件と種類にもよる。
- (部会長)・ ヒ素、ホウ素、鉛の汚染は自然由来との話があったが、処分場の影響のないところを測定した事例はあるか。処分場以外のデータも調べてほしい。
- ・ 経堂池の水質で窒素が農業用水基準 1 mg/L を超えたが環境基準ではなく、要望値であり参考となる。底質からは有害物質等が基準値以下または不検出であり、処分場の影響はないと判断してよいか。
- (横山委員)・ (経堂池)底質は時々浚渫されていたが、(最近は)いつされたか。
- (事務局)・ 最近はされていない。
- (部会長)・ 可燃性ガス(メタン)、硫化水素などが確認されているが、孔内温度が 30 で一般的な安定型処分場よりかなり低いため、資料の記述の方向性でよい。
- ・ 2つの焼却炉の付着物から高濃度のダイオキシン類が検出された。老朽化に伴う損壊の程度から飛散した場合は、近隣に支障を及ぼす可能性があり、何らかの対策を講ずる必要があるとされているがこれでよいか。
  - ・ 追加調査結果から、支障の範囲はペンディングで、モニタリングして判断するが、他の部分はこの支障の整理でいいと思う。
- (横山委員)・ 今後の調査の継続の方法、方針はどのようになっているのか。
- (事務局)・ 追加調査は(元従業員の)証言をもとに重機やケーシングで掘削して、ドラム缶や焼却灰、有機汚泥を把握したい。追加掘削は、重機により 11,500m<sup>3</sup>、ケーシングは 8カ所を予定している。

#### 【議題(2)生活環境保全上の支障の整理】

- ・「2. 生活環境保全上の支障の整理」(資料2)を事務局より説明。

~ 質疑応答 ~

- (部会長)・ 急勾配の西市道側法面の崩壊による支障(の対策)は、安定勾配にされるが、亀裂の部分からガスの発生も支障になるのでは。
- (事務局)・ ガスの支障とあわせて、文言を訂正する。
- (部会長)・ 平坦部(の表面)が著しい表面侵食を受けた場合やその後乾燥した場合に、微粒子が流出することについていかがか。
- (江種委員)・ 表 1.3.1 の数値は、表層土壌の分析値か。

- (事務局)・ボーリング深度毎の値等で、表層のデータではない。
- (江種委員)・覆土されていないので可能性はある。しかし表 1.3.1 のデータを表層土壌の飛散流出に使う必要はない。
- (事務局)・鉛が土壌の含有量基準を超過しているデータであり、記述を修正する。
- (横山委員)・図 1.4.3 の地下水位について、丸印は測定日時か。
- (事務局)・そうである。
- (横山委員)・降雨時には(急に)水位が上がり、数時間で回復する市の連続観測の結果があるので確認されたい。
- ・浸透水は雨水が主にされているが、(横から入る)地下水も可能性があるなので検討されたい。
- (部会長)・市のデータ等を踏まえて再整理されたい。
- ・7ページの断面図に浸透水の水位が表記されたが、廃棄物層の下まで掘削されたので、この断面図は従来のものを修正したのか。
- (事務局)・廃棄物層が Ks2 と接触していること、溶融炉の関係の杭が残っているのでそれを修正した。
- (部会長)・(廃棄物層が帯水層に接触しているので有害物質が)SS に付着したまま浸透した可能性について、細粒分は捕捉されることについていかがか。
- (尾崎委員)・ダイオキシン類は粒子にくっついて動きにくく、土壌層が数 10cm もあれば、(それより)下にはほとんど行かない。廃棄物層が(帯水層に)触れて直接入ってきても、帯水層では基本的には溶解したものが流れる。
- ・SS が砂などの粒子を渡り歩きながら流れていく可能性はあり、否定はできない。
- (部会長)・Ks3 層や Ks2 層(の帯水層)が廃棄物層と接していると推定されるため、直接(浸透水が)流出する可能性と、粒子は Ks3 層や Ks2 層で捕捉される可能性もある。
- ・浸透水が(そのまま染み込んでも)新たに Ks2 層等と直接接触していることがわかったので、今後の対策工法では考慮しなければならない。
  - ・含有量試験については(本日の専門部会の)委員の中では 1 N(規定)の塩酸による抽出法でよいと意見が出ているが、清水委員と勝見委員の意見を伺い、今回の結果を踏まえて、梶山委員からも事前にコメントをいただきたい。

### 【議題(3)その他】

当座委員提供資料(委員提供資料 ~ )について  
~意見~

(部会長)

- ・委員提供資料には廃止基準がクリアされて、処分場が安全に廃止できるような対策をとるという要望等があり、今後の支障除去の対策とこの処分場の廃止という絡みの中で、対策工法の中で検討されるべき。

総水銀について

～ 質疑応答 ～

(事務局)・ (経堂池下流の) 総水銀についてモニタリング以外に、ボーリング調査など判断できる調査方法を教えていただきたい。

(横山委員)・ 濃度の問題もあるが、処分場の中または逆流する流れの上流側に水銀の元を突きとめることになるが、高濃度の水銀が自然由来とは考えにくい。

(部会長)・ 上流側は、この地形図では下流側にあたる。

(江種委員)・ この流れを確認するために、市 No. 3 の上流側に (ボーリングが) 必要。または市 No. 3 と市 No. 7 の間でもいい。この間の距離はどの程度か。

(栗東市)・ 距離は約 100m。

(江種委員)・ (地下水の) 流れがぶつかると自噴するか直角に流れるので、経堂池の両端ぐらいで、面的に見るのも一つの方法。

(部会長)・ ボーリングの位置は横山先生と相談されたい。

【閉会】